

予てより創刊が期待されていたクラブの会報が、ホームページの充実の一環として実現する事になりました。最初の企画でメンバー紹介を行うこととし、第一号として大久保さんに登板して頂きました。引き続きいろいろな方に登板して頂きますので、期待ください。編集者(要)

はじめに

我孫子オーディオファンクラブ(AAFC)に入会して早いもので1年が過ぎました。我孫子市民会館での活動は残念ながら昨年で終了となり今年からは新しい街、新しい雰囲気の中で再出発となります。

今までは手賀沼の四季を感じながら毎回片道20分程度の距離を自転車で行って来ました。それも昨年までとなりとても残念です。今年もまた沢山の曲との出会い、人との出会いを求めて、できるだけ参加させていただきたいと思っています。

音楽との出会い

私の音楽との出会いそれは小学校の音楽の時間に始まります。昭和30年代、決して音楽環境が整っていた時代ではありません。近所を見回しても蓄音機(古い表現です)すらお目にかかれない時代でした。

そんな時代の音楽の時間、時々レコード鑑賞の時間がありました。教室で聴かされた難解なクラシック、その曲は今でも忘れていませんが、ベートーベンの「田園」でした。音楽、それもクラシックを聴くような環境で育ったわけでもない私にとって、なんて返屈な曲なのだろうという印象しかない、初めての名曲との出会いでした。

それでも音楽を聴くことは好きでした。家においては今でもどこも考えられません。ラジオから流れてくる音楽にマイクを向け、テープレコーダーに録音する。周りの雑音が入らないように静かに細心の注意で録音。そして何度も何度もテープを巻き戻しては好きになつた曲「真珠貝」や「北風」を聴いていました。

小学生だった私には曲を録音する知識など何もありません。ただ身の回りにもあるものを使って子供なりの仕方でも音楽に親しんでいました。その後就職し、どうしても欲しくて買った最初のステレオはYAMAHAのセパレート型のステレオでした。月給の3カ月分を投入した大きな買物でしたが「自分のお金で買った自分だけの宝物」と言う満足感は十分ありました。

した。そしてはじめて買ったレコードは何故かドーナツ版のベートーベンの「月光ソナタ」でした。年齢とともにクラシックにも興味が出てきた頃です。電気を消して暗闇の中で聴いた「月光ソナタ」に大いに感動を覚えた青春時代でした。



我孫子在住200数年

結婚と同時に湘南から我孫子市に移り住んで200数年。仕事をしてきたこともあり、地域の活動には無関心、興味も持たずにいました。数年前に仕事をやめ、地域の活動にやっと目が向き出した時に「AAFC10周年記念のコンサートがあることを知り、ピスタホールへ出かけたことが会の活動を知るきっかけになりました。

どのような活動をしているのか興味本位に市役所2階に足を向け、恐る恐る覗いてみたのですが、男性ばかりの会場に「二の足を踏み、一瞬」私は場違いな所に来てしまったのでは」という感じを持ちました。居場所がないような気分でしたが、それでも部屋の片隅で発表される名曲に耳を傾けていました。

人それぞれ、曲の好みもクラシックから教会音楽、ジャズ等多彩。映像あり自前のスピーカーでの試聴ありと、この1年間興味を持って参加することができました。

口ずさめても曲のタイトルを知らなかったものや何となく敬遠していたジャンルの曲。

それらを確認し、聴く機会を得たこと。曲のレパートリーも増え会員の方からのサジェスチョンを受けることもできました。1年間100%の出席率ではありませんでしたが、それでもオーディオに関する知識、曲に関する興味をそそる話を聞かせていただき、音楽の世界が広がり入会して本当に良かったと思っています。

主婦のささやかな音楽空間

私のささやかなオーディオルームです。と言いましても廊下の片隅に装置をセットし、それらしくしただけの簡単なものです。

装置はDENONのポインントコンポを使っています。アンプは〇社製、スピーカーは〇〇社製というような購入の仕方はできません。なぜなら製品に関する知識がなかったからです。普通の主婦が普通に音楽を楽しむにはセッットになっているものが一番わかりやすく、買いやすかったです。それでもショップで音の違いを確認し、聴き比べた中で自分の耳が一番心地よく響いてきたのがこの商品でした。それに仕上げもなかなかきれいにできていて、思い買っ決心をしました。

しかしながら最近ではもっと広がりのある音、もっと深みのある音、もっと臨場感のある音と欲が出てきました。でも「装置の位置を変え角度を変えるだけでも音色が変わるものなんだよ」ということを会員の方から教えられる。



ラジオ・CDから録音したMD



いろいろなジャンルから何千何万もの素晴らしい曲が出回っている現在、自分の気に入った曲を探すのは中々大変なことです。今の私は名盤を名器というよりは、耳にしたことのない曲に1曲でも多く接したい、そして1曲でも多く自分のものとして感じたいという気持ちで会に参加しています。

会では手作りのアンプやスピーカー等の話も出てきます。メカニク的な話は専門的過ぎて私にはわかりません。でも何度も聞いていけば何となくわかってくるものもあると思っています。

男性諸氏の嬉々とした顔を見ていけば、いかにオーディオ好きの人たちの集まりであるかを嫌でも実感させられます。

生活に音楽を

パソコンを打ちながら、本を読みながら、アイロンをかけながら、いつも音楽と一緒に。生活の中の音楽はあくまでも従の存在です。邪魔にならないように静かに流しています。普段はどこにいても聴けるようにラジオを使っています。でもたまには交響曲にジックリ耳を傾けることもあります。そんな時は廊下に陣取り、本格的に耳を傾け少しでも良い音で聴いています。

交響曲、協奏曲、室内楽、管弦楽、歌劇、ジャンルは問いません。それに、クラシックだけが音楽ではありません。日本人の心を歌った演歌や吉田兄弟の三味線の演奏も好きです。その日の気分に合わせて何でも聴くようにしています。

期待

音楽には感動があり、情熱があります。耳にしているだけで情景が浮かんできます。曲のできた背景を知れば同じ曲でも違った気持ちで聴くことができるのかも知れません。

私は聴くだけの人間です。聴くことに楽しみを見出しています。

さて、今年は何んな出会いが待っているのでしょうか。先輩諸氏、いろいろな話いろいろな曲を聴かせてください。それらをしっかりと吸収して、より充実した音楽生活を送りたいと思っています。

大久保貴枝子